

る」が 169 名 (1.0%) であった。2 回目は「ない」が 16,041 名 (99.3%)、「ある」が 115 名 (0.7%) であった。3 回目は「ない」が 16,012 名 (99.1%)、「ある」が 144 名 (0.9%) であった。4 回目は「ない」が 15,915 名 (98.5%)、「ある」が 241 名 (1.5%) であった。このように、じょくそうは、初回 1.0%、2 回目 0.7% と減少し、3 回目 0.9%、4 回目 1.5% と増加していたが、発生率としては低かった。

要介護度別には、じょくそうの処置の発生率が高いのは要介護 5 で初回は、15.8% であった。要介護 5 は、初回から 4 回目まで、認定回数が増えるにしたがって、じょくそうの処理は減少していた。非該当では、じょくそうの処置は、全く発生していなかった。要支援から要介護 2 までは、認定回数が増加するにしたがって、じょくそうの処置も増加していた。要介護 3 は、初回から 3 回目まで、減少し、4 回目で増加していた。要介護 4 は、初回から 2 回目で減少するが、3 回目、4 回目と増加に転じていた。

表 135 要介護度別 じょくそうの処置が「ある」割合 (%) の経年的変化 (N=16,156)

	非該当	要支援	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	全体
初回	0	0.1	0.2	0.6	1.6	4.2	15.8	1.0
2回目	0	0.1	0.2	0.6	1.5	2.5	6.0	0.7
3回目	0	0.3	0.5	1.1	1.1	2.6	4.5	0.9
4回目	0	0.7	0.9	1.9	2.2	3.7	3.9	1.5

(12) カテーテル

全体として、カテーテルについては、初回は「ない」が 15863 名 (98.2%)、「ある」が 293 名 (1.8%) であった。2 回目は「ない」が 15963 名 (98.8%)、「ある」が 193 名 (1.2%) であった。3 回目は「ない」が 15931 名 (98.6%)、「ある」が 225 名 (1.4%) であった。4 回目は「ない」が 15849 名 (98.1%)、「ある」が 307 名 (1.9%) であった。このように、カテーテルがある割合は、初回は、1.8%、2 回目 1.2% と減少し、3 回目が 1.4% と増加、さらに 4 回目 1.9% と増加していた。

要介護度別には、初回の要介護 5 は 25.1% と高い割合であったが、2 回目は 6.6% と急激に低下し、3 回目も 4.2% とさらに低くなっていた。4 回目は、5.4% と増加しており、要介護 5 での発生率が高いことが示されていた。このほかに要介護 4 でも、カテーテルの発生率が高いが、その割合は、初回から 4 回と認定回数が増加するにしたがって、順に減少していた。要支援から要介護 2 までは、認定回数が増加するにしたがって、カテーテルの発生率は増加していた。

表 136 要介護度別 カテーテル処置が「ある」の割合 (%) の経年的変化 (N=16,156)

	非該当	要支援	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	全体
初回	0	0.1	0.4	1.0	3.6	6.5	25.1	1.8
2回目	0	0.2	0.7	1.3	1.8	3.5	6.6	1.2
3回目	0	0.5	1.1	1.7	2.0	2.5	4.2	1.4
4回目	0	0.9	1.7	2.1	2.8	2.5	5.4	1.9

3.要介護認定ロジック改訂前の旧項目からみた経年的変化

(1) 両足での座位

全体としての両足での座位について、初回は「できる」が11,396名(70.5%)、自分の手で支えれば「できる」が2,852名(17.7%)、支えてもらえば「できる」が1,727名(10.7%)、「でき「ない」が181名(1.1%)であった。2回目は「できる」が11,524名(71.3%)、自分の手で支えれば「できる」が2,991名(18.5%)、支えてもらえば「できる」が1,557名(9.6%)、「できない」が84名(0.5%)であった。3回目は「できる」が10,940名(67.7%)、自分の手で支えれば「できる」が3,204名(19.8%)、支えてもらえば「できる」が1,902名(11.8%)、「できない」が110名(0.7%)であった。4回目は「できる」が10,093名(62.5%)、自分の手で支えれば「できる」が3,434名(21.3%)、支えてもらえば「できる」が2,402名(14.9%)、「できない」が226名(1.4%)であった。

これらの結果、両足での座位について、何らかの介助が必要な要介護高齢者の割合は、初回は29.5%、2回目は28.7%と減少していたが、3回目は32.7%、4回目は37.5%と増加していた。

要介護度別には、非該当から要介護1までは、認定回数が増加するにしたがって、自立の割合が減少していた。要介護2から5までは、初回から2回目に自立の割合が増加していた。2回目から3回目には、要介護5が32.5%から32.8%へ増加した以外は、自立割合は減少していた。3回目から4回目は、すべての要介護度において自立割合は減少していた。

表 137 要介護度別両足つかない座位「できる」の割合(%)の経年的変化(N=16,156)

	非該当	要支援	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	全体
初回	100	90.3	81.1	66.6	50.8	23.1	7.5	70.5
2回目	87.0	85.9	78.5	67.6	57.9	38.3	32.5	71.3
3回目	87.0	83.4	74.4	62.7	53.7	37.6	32.8	67.7
4回目	78.3	78.0	69.3	57.0	47.8	34.7	29.9	62.5

(2) 両足つかない座位

全体として、両足のつかない座位については、初回は「できる」が6,199名(38.4%)、「自分の手で支えればできる」が6,183名(38.3%)、支えてもらえば「できる」が3,268名(20.2%)、「できない」が506名(3.1%)であった。2回目は「できる」が5,840名(36.1%)、「自分の手で支えればできる」が6,693名(41.4%)、「支えてもらえばできる」が3,298名(20.4%)、「できない」が325名(2.0%)であった。3回目は「できる」が5,425名(33.6%)、「自分の手で支えればできる」が6,692名(41.4%)、「支えてもらえばできる」が3,694名(22.9%)、「できない」が345名(2.1%)であった。4回目は「できる」が4,753名(29.4%)、

「自分の手で支えればできる」が 6,680 名 (41.3%)、「支えてもらえばできる」が 4,236 名 (26.2%)、「できない」が 486 名 (3.0%) であった。

これらの結果、両足つかない座位に際して、何らかの介助が必要な要介護高齢者の割合は、初回が 61.6%、2 回目が 63.9%、3 回目が 66.4%、4 回目が 71.6%と増加していた。

要介護度別には、要支援から要介護 2 までは、認定回数が増加するにしたがって、自立割合は減少していた。非該当は、初回から 3 回目まで自立割合は減少していたが、3 回目から 4 回目で、43.5%から 47.8%へと増加していた。要介護 3 から 5 までは、初回から 2 回目までに自立割合は、増加していた。2 回目から 3 回目においては、要介護 3 は自立割合が減少していたが、要介護 4、5 は増加していた。3 回目から 4 回目においては、要支援から要介護 5 まですべて自立割合は減少していた。

表 138 要介護度別両足つかない座位「できる」の割合 (%) の経年的変化 (N=16,156)

	非該当	要支援	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	全体
初回	87	57.4	45.8	31.1	21.5	7.2	2.1	38.4
2回目	61	51.3	41.2	30.2	24.3	12.3	12.2	36.1
3回目	43.5	48.3	37.2	27.9	23.6	13.3	13.4	33.6
4回目	47.8	42.3	32.9	24.3	20.0	12.9	8.7	29.4

(3) 浴槽の出入り

全体として、浴槽の出入りは、初回は「自立」が 6,588 名 (40.8%)、「一部介助」が 5,703 名 (35.3%)、「全介助」が 1,150 名 (7.1%)、「行っていない」が 2,715 名 (16.8%) であった。2 回目は「自立」が 6,122 名 (37.9%)、「一部介助」が 6,841 名 (42.3%)、「全介助」が 1,317 名 (8.2%)、「行っていない」が 1,876 名 (11.6%) であった。3 回目は「自立」が 5,399 名 (33.4%)、「一部介助」が 7,245 名 (44.8%)、「全介助」が 1,550 名 (9.6%)、「行っていない」が 1,962 名 (12.1%) であった。4 回目は「自立」が 4,569 名 (28.3%)、「一部介助」が 7,366 名 (45.6%)、「全介助」が 1,843 名 (11.4%)、「行っていない」が 2,377 名 (14.7%) であった。

このように、浴槽の出入りに何らかの介助が必要な要介護高齢者の割合は、初回が 40.4%、2 回目が 50.5%、3 回目が 59.8%と増加していたが 4 回目は 57%と減少していた。また浴槽の出入りを行っていない高齢者の割合は、初回が 16.8%、2 回目が 11.6%と減少するが、3 回目は、12.1%と増加し、4 回目も 14.7%とさらに増加していた。浴槽の出入りが自立している高齢者の割合は、他の調査項目に比較して低い割合を示していた。

要介護度別に、浴槽の出入りが自立している割合について初回から 4 回目までの推移を見た結果、非該当、要支援、要介護 1 を除くと自立割合は、かなり低かった。初回からの推移に関しては要支援と要介護 1 は、認定回数が増えるにしたがって、自立割合が低下していた。要介護 2 から 5 は、初回から 2 回目までは、自立割合は増加していた。2 回目から 3 回目は、非該当が 39.1%から 56.5%へ、要介護 4 が 3.3%から 3.4%に増加した以外は、すべて減少していた。3 回目から 4 回目は、要介護 5 が 1.5%から 2.7%に増加した以外はすべて減少していた。

表 139 要介護度別浴槽の出入り「自立」の割合 (%) の経年的変化 (N=16,156)

	非該当	要支援	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	全体
初回	91.3	86.8	50.6	18.5	5.7	1.4	0.0	40.8
2回目	39.1	75.2	47.1	19.3	9.2	3.2	2.1	37.9
3回目	56.5	66.9	40.1	18.1	9.2	3.3	1.5	33.4
4回目	52.2	58.2	33.7	14.6	6.7	2.7	2.7	28.3

(4) 片手胸元持ち上げ

全体として、片手胸元持ち上げが、初回は、「できる」が 16,098 名 (99.6%)、「介助があればできる」が 46 名 (0.1%)、「できない」が 12 名 (0.3%) であった。2 回目は、「できる」が 16,108 名 (99.7%)、「介助があればできる」が 34 名 (0.1%)、「できない」が 14 名 (0.2%) であった。3 回目は、「できる」が 16,107 名 (99.7%)、「介助があればできる」が 33 名 (0.1%)、「できない」が 16 名 (0.2%) であった。4 回目は、「できる」が 16,037 名 (99.3%)、「介助があればできる」が 79 名 (0.2%)、「できない」が 39 名 (0.5%) であった。

このように、初回では 99.6%が自立で、2 回目と 3 回目が 99.7%、4 回目が 99.3%と、認定回数の増加によらず自立割合が高い項目であったが、初回に比較すると 4 回目の自立割合はわずかに減少していた。

要介護度別には、非該当は初回から 4 回目まですべて 100%が自立していた。要支援から要介護 3 までも、初回から 4 回まで大きな変動はないが、わずかに自立割合が減少していた。要介護 4 と 5 は、初回から 2 回目に自立割合が増加していた。要介護 4 は 3 回目、4 回目と減少していたが、要介護 5 だけは 3 回目にも自立割合が増加していた。

表 140 要介護度別片手胸元持ち上げ「できる」の割合 (%) の経年的変化 (N=16,156)

	非該当	要支援	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	全体
初回	100	99.9	99.9	99.7	99.6	98.6	94.9	99.6
2回目	100	99.9	99.8	99.7	99.6	99.1	97.9	99.7
3回目	100	99.9	99.8	99.7	99.6	98.9	98.8	99.7
4回目	100	99.7	99.7	99.1	98.7	97.5	97.3	99.3

(5) 尿意

全体として、尿意は、初回は「ある」が 13,971 名 (86.5%)、「ときどきある」が 1,540 名 (9.5%)、「できない」が 645 名 (4.0%) であった。2 回目は「ある」が 13,728 名 (85.0%)、「ときどきある」が 1,714 名 (10.6%)、「できない」が 714 名 (4.4%) であった。3 回目は「ある」が 13,147 名 (81.4%)、「ときどきある」が 1,989 名 (12.3%)、「できない」が 1,020 名 (6.3%) であった。4 回目は「ある」が 12,303 名 (76.2%)、「ときどきある」が 2,297 名 (14.2%)、「できない」が 1,555 名 (9.6%) であった。

これらの結果、尿意が「ときどきある」および「ない」と回答した要介護高齢者の割合

は、初回 13.5%、2回目 15.0%、3回目 18.6%、4回目 23.8%と3回目から4回目の増加が大きかった。

要介護度別には、尿意がある割合は、要支援から要介護 3 までは、初回から4回まで、回数の増加にしたがって、漸次、減少していた。要介護 4 と 5 は、初回から2回目に、尿意がある者の割合がそれぞれ、初回 52.7%から 61.4%へ、48.4%から 61.8%へと増加していた。3回目から4回目は、被害等が 87.0%から 91.3%に増加した以外は、すべて減少していた。3回目から4回目は、すべての要介護度において尿意がある割合は減少していた。

表 141 要介護度別尿意「ある」の割合 (%) の経年的変化 (N=16,156)

	非該当	要支援	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	全体
初回	100	97.8	94.3	86.0	70.7	52.7	48.4	86.5
2回目	87.0	96.4	90.8	82.4	70.7	61.4	61.8	85.0
3回目	91.3	93.9	87.7	76.8	66.7	58.3	61.5	81.4
4回目	82.6	90.5	81.9	70.9	60.5	55.0	56.7	76.2

(6) 便意

全体として、便意は、初回は「ある」が 14,576 名 (90.2%)、「ときどきある」が 905 名 (5.6%)、「できない」が 675 名 (4.2%) であった。2回目は「ある」が 14,480 名 (89.6%)、「ときどきある」が 963 名 (6.0%)、「できない」が 713 名 (4.4%) であった。3回目は「ある」が 13,967 名 (86.5%)、「ときどきある」が 1,182 名 (7.3%)、「できない」が 1,007 名 (6.2%) であった。4回目は「ある」が 13,141 名 (81.3%)、「ときどきある」が 1,386 名 (8.6%)、「できない」が 1,628 名 (10.1%) であった。

これらの結果、便意が「ときどきある」あるいは、「ない」要介護高齢者の割合は、初回 9.8%、2回目 10.4%、3回目 13.5%、4回目 18.7%と、漸次、増加する傾向が見られた。

要介護度別には、非該当から要介護 2 までは、初回から4回目まで漸次、便意がある者の割合は減少していた。要介護 3 から 5 までは、初回から2回に便意ありの割合が増加していた。2回目から3回目に、この割合が増加していたのは、要介護 5 だけだった。3回目から4回目は、すべての要介護度において、便意がある割合は減少していた。

表 142 要介護度別便意「ある」の割合 (%) の経年的変化 (N=16,156)

	非該当	要支援	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	全体
初回	100	99.2	97.9	91.2	76.5	57.8	44.5	90.2
2回目	100	98.3	95.4	88.6	77.7	66.4	63.3	89.6
3回目	95.7	96.8	92.8	82.9	73.2	64.5	65.4	86.5
4回目	95.7	93.9	87.4	77.4	66.6	58.3	59.7	81.3

(7) 排尿後の後始末

全体として、排尿後の後始末は、初回は「自立」が 9,334 名 (57.8%)、「間接的援助」が 4,707 名 (29.1%)、「直接的援助」が 793 名 (4.9%)、「全介助」が 1,322 名 (8.2%) であ

った。2回目は「自立」が9,232名(57.1%)、「間接的援助」が4,859名(30.1%)、「直接的援助」が847名(5.2%)、「全介助」が1,218名(7.5%)であった。3回目は「自立」が8,618名(53.3%)、「間接的援助」が4,838名(29.9%)、「直接的援助」が1,028名(6.4%)、「全介助」が1,672名(10.3%)であった。4回目は「自立」が7,774名(48.1%)、「間接的援助」が4,783名(29.6%)、「直接的援助」が1,139名(7.1%)、「全介助」が2,459名(15.2%)であった。

このように、排尿後の後始末については、何らかの援助が必要な要介護高齢者の割合は、初回42.2%、2回目42.9%、3回目46.7%、4回目50.9%と漸次、増加していた。

要介護度別には、要支援、要介護1においては、認定回数が増加するにしたがって自立割合が減少していたが、要介護2から5においては初回から2回目に、要介護2では41.8%から42.6%へ、要介護3では13.7%から26.3%へ、要介護4は3.7%から16.5%へと4.5倍へ、要介護5では0.9%から10.7%へと11.9倍となり、要介護度が高いほうの自立割合が顕著に増加していた。2回目から3回目には、要介護3から5までは、すべて自立割合が増加していた。3回目から4回目には、要介護4を除いて、減少していた。要介護4は、初回から4回目まで、認定回数が増加するにしたがって、漸次、自立割合が増加していた。

表 143 要介護度別排尿後の後始末「自立」の割合(%)の経年的変化(N=16,156)

	非該当	要支援	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	全体
初回	95.7	94.9	75.6	41.8	13.7	3.7	0.9	57.8
2回目	65.2	88.2	69.8	42.6	26.3	16.5	10.7	57.1
3回目	69.6	83.3	63.2	39.6	26.9	16.9	17.6	53.3
4回目	65.2	76.1	56.8	34.5	23.8	18.0	16.7	48.1

(8) 排便後の後始末

全体として、排便後の後始末は、初回は「自立」が10,245名(63.4%)、「間接的援助」が3,292名(20.4%)、「直接的援助」が1,236名(7.7%)、「全介助」が1,383名(8.6%)であった。2回目は「自立」が10,112名(62.6%)、「間接的援助」が3,428名(21.2%)、「直接的援助」が1,371名(8.5%)、「全介助」が1,245名(7.7%)であった。3回目は「自立」が9,529名(59.0%)、「間接的援助」が3,351名(20.7%)、「直接的援助」が1,581名(9.8%)、「全介助」が1,695名(10.5%)であった。4回目は「自立」が8,589名(53.2%)、「間接的援助」が3,272名(20.3%)、「直接的援助」が1,755名(10.9%)、「全介助」が2,539名(15.7%)であった。

これらの結果、排便後の後始末に何らかの援助が必要な要介護高齢者の割合は、初回46.6%、2回目47.5%、3回目41.0%、4回目46.8%と増加していた。

要介護度別には、非該当から要介護1までは、認定回数が増加するにしたがって、自立割合が減少していた。要介護2は、初回から2回目までに自立割合が若干増加した後、3回目、4回目は減少していた。要介護3から要介護5までは、初回から3回目まで漸次、

増加し、4回目で減少していた。要介護4と5は、3回目まで自立の割合の増加が顕著で、初回から2回目までに、要介護4は、8.3%から18.0%と増加しており、2.17倍であった。要介護5は、初回0.9%から、2回目13.1%と示され、14.6倍に増加していた。さらに2回目から3回目にも要介護4と5は増加しており、要介護4は、18.0%から20.8%へ。要介護5は、13.1%から18.8%へと増加していた。

表 144 要介護度別排便後の後始末「自立」の割合 (%) の経年的変化 (N=16,156)

	非該当	要支援	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	全体
初回	95.7	96.5	82.7	50.4	19.7	4.3	0.9	63.4
2回目	82.6	91.5	75.7	50.6	31.7	18.0	13.1	62.6
3回目	69.6	87.3	70.2	45.7	31.9	20.8	18.8	59.0
4回目	69.6	80.5	63.0	40.0	28.5	19.2	17.6	53.2

(9) ボタンのかけはずし

全体として、ボタンのかけはずしについて、初回は、「自立」が10,395名(64.3%)、「見守り等」が1,926名(11.9%)、「直接的援助」が2,058名(12.7%)、「全介助」が1,777名(11.0%)であった。2回目は、「自立」が10,074名(62.4%)、「見守り等」が2,146名(13.3%)、「直接的援助」が2,267名(14.0%)、「全介助」が1,669名(10.3%)であった。3回目は、「自立」が9,354名(57.9%)、「見守り等」が2,149名(13.3%)、「直接的援助」が2,505名(15.5%)、「全介助」が2,148名(13.3%)であった。4回目は「自立」が8,479名(52.5%)、「見守り等」が2,071名(12.8%)、「直接的援助」が2,612名(16.2%)、「全介助」が2,993名(18.5%)であった。

これらの結果、ボタンのかけはずしに何らかの援助が必要な要介護高齢者の割合は、初回35.7%、2回目37.6%、3回目42.1%、4回目47.5%と増加していた。

要介護度別には、要支援から要介護3まで、ボタンのかけはずしが自立している割合は、認定回数が増加するにしたがって、漸次、減少していた。要介護4と5は、初回はそれぞれ、8.4%、3.3%であったが、2回目19.9%、22.7%と2.4倍、6.9倍と大きく増加していた。2回目から3回目は要介護4の自立割合は、19.9%から21.0%へと増加していたが、その他の要介護では、すべて減少していた。

表 145 要介護度別ボタンのかけはずし「自立」の割合 (%) の経年的変化 (N=16,156)

	非該当	要支援	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	全体
初回	100	97.1	83.6	48.9	23.7	8.4	3.3	64.3
2回目	95.7	92.2	75.2	47.6	32.8	19.9	22.7	62.4
3回目	60.9	87.2	69.6	43.3	29.3	21.0	20.9	57.9
4回目	65.2	80.7	62.9	37.3	27.7	19.3	20.0	52.5

(10) 靴下の着脱

全体としては、靴下の着脱は、初回は「自立」が10,183名(63.0%)、「見守り等」が1,627

名(10.1%)、「一部介助」が1,836名(11.4%)、「全介助」が2,510名(15.5%)であった。2回目は「自立」が10,046名(62.2%)、「見守り等」が1,827名(11.3%)、「一部介助」が1,943名(12.0%)、「全介助」が2,340名(14.5%)であった。3回目は「自立」が9,258名(57.3%)、「見守り等」が1,820名(11.3%)、「一部介助」が2,097名(13.03%)、「全介助」が2,981名(18.5%)であった。4回目は「自立」が8,359名(51.7%)、「見守り等」が1,782名(11.0%)、「一部介助」が2,086名(12.9%)、「全介助」が3,928名(24.3%)であった。

これらの結果、靴下の着脱に何らかの援助が必要な要介護高齢者の割合は、初回は37.0%、2回目37.8%、3回目42.7%、4回目48.3%と増加していた。ただし、全介助の割合は、初回が15.5%であったが2回目は14.5%と減少し、さらに3回目18.5%、4回目24.3%と増加していた。

要介護度別には、非該当から要介護2までは初回から4回目まで、漸次、自立の割合は減少していた。要介護3から5における初回から2回目までは、要介護3は14.3%から30.0%へ、要介護4は、2.2%から14.9%へと6.8倍に、要介護5は、0%から13.1%へと大きく自立割合が増加していた。2回目から3回目には、要介護3は、減少していたが、要介護4は14.9%から17.6%へ、要介護5は、13.1%から16.7%へと増加していた。また、3回目から4回目には、すべての要介護度において自立の割合は減少していた。

表 146 要介護度別靴下の着脱「自立」の割合(%)の経年的変化(N=16,156)

	非該当	要支援	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	全体
初回	100	98.7	85.9	45.4	14.3	2.2	0.0	63.0
2回目	82.6	93.6	76.7	47.2	30.0	14.9	13.1	62.2
3回目	65.2	87.7	69.8	42.5	26.9	17.6	16.7	57.3
4回目	60.9	81.5	62.5	36.6	25.0	16.4	14.9	51.7

(11) 居室の掃除

全体としての居室の掃除は、初回は「自立」が1,874名(11.6%)、「一部介助」が4,813名(29.8%)、「全介助」が9,469名(58.6%)であった。2回目は「自立」が1,430名(8.9%)、「一部介助」が4,977名(30.8%)、「全介助」が9,749名(60.3%)であった。3回目は「自立」が1,169名(7.2%)、「一部介助」が4,765名(29.5%)、「全介助」が10,222名(63.3%)であった。4回目は「自立」が935名(5.8%)、「一部介助」が4,372名(27.1%)、「全介助」が10,848名(67.1%)であった。

このように、居室の掃除に何らかの援助が必要な要介護高齢者の割合は、初回は88.4%、2回目91.1%、3回目92.8%、4回目94.2%と初回から4回目にかけて増加していた。居室の掃除に関しては自立割合が極めて低い項目であった。

要介護度別には、非該当において、初回が78.3%の自立割合を示していたのに対し、2回目が17.4%と大きく減少し、3回目には4.3%と、さらに大きく減少していた。要支援、要介護1においても初回から4回目まで、漸次、自立割合は減少していた。要介護2から4

までは、わずかではあるが自立割合が、それぞれ要介護 2 が 1.9%から 2.2%へ、要介護 3 が 0.4%から 0.9%へ、要介護 4 が 0.2%から 0.6%へと増加していた。2 回目から 3 回目には、要介護 3 だけが 0.9%から 1.3%へ、要介護 5 が 0%から 0.6%へと増加していた。3 回目から 4 回目には、要介護 5 が 0.6%から 0.9%へと増加していたが、他の要介護度においては、すべて自立割合は減少していた。

表 147 要介護度別居室の掃除で何らかの介助が必要な割合 (%) の経年的変化 (N=16,156)

	非該当	要支援	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	全体
初回	21.7	67.5	87.6	98.1	99.6	99.8	100.0	88.4
2回目	82.6	77.2	90.0	97.8	99.1	99.4	100.0	91.1
3回目	95.7	81.7	92.1	97.8	98.7	99.5	99.4	92.8
4回目	95.7	85.6	93.3	98.4	99.4	99.6	99.1	94.2

(12) 周囲への無関心

全体としては、周囲への無関心は、初回は「ない」が 13,219 名 (81.8%)、「ときどきある」が 1,577 名 (9.8%)、「ある」が 1,360 名 (8.4%) であった。2 回目は「ない」が 13,308 名 (82.4%)、「ときどきある」が 1,549 名 (9.6%)、「ある」が 1,299 名 (8.0%) であった。3 回目は「ない」が 13,257 名 (82.1%)、「ときどきある」が 1,529 名 (9.5%)、「ある」が 1,370 名 (8.5%) であった。4 回目は「ない」が 13,144 名 (81.4%)、「ときどきある」が 1,502 名 (9.3%)、「ある」が 1,509 名 (9.3%) であった。

このように周囲の関心を持たないという問題行動があると回答された割合は、初回は、18.2%、2 回目 17.6%、3 回目 17.9%、4 回目 18.6%と 2 回目に減少して、3 回目、4 回目と増加する傾向が示されていた。

要介護度別には、非該当から要介護 1 までは、この問題行動は、認定回数が増加するにしたがって増加していたが、逆に要介護 3 から 5 までは、認定回数が増加するにしたがって、問題行動の割合は減少していた。要介護 2 は、初回から 2 回目は、減少するが、3 回目はわずかに増加し、4 回目増加していた。

表 148 要介護度別 周囲への無関心が「ある」の割合 (%) の経年的変化 (N=16,156)

	非該当	要支援	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	全体
初回	4.3	5.7	12.9	24.8	31.1	33.4	32.5	18.2
2回目	13.0	7.5	14.4	23.2	26.5	27.9	23.3	17.6
3回目	13.0	9.1	15.2	23.3	25.4	25.8	22.7	17.9
4回目	21.7	10.1	16.2	24.5	24.3	25.7	22.7	18.6

(13) 性的迷惑行為

全体としては、性的迷惑行為は、初回は「ない」が 16,064 名 (99.4%)、「ときどきある」

が41名(0.3%)、「ある」が51名(0.3%)であった。2回目は「ない」が16,041名(99.3%)、「ときどきある」が51名(0.4%)、「ある」が64名(0.3%)であった。3回目は「ない」が16,045名(99.3%)、「ときどきある」が43名(0.4%)、「ある」が68名(0.3%)であった。4回目は「ない」が16,032名(99.2%)、「ときどきある」が55名(0.4%)、「ある」が68名(0.3%)であった。

このように、この問題行動は、初回から4回目までほとんど発生していないが、初回0.6%が4回目に0.8%と示され、若干増加していた。

要介護度別には、非該当では初回から4回目まで全く発生していなかった。要支援、要介護1、要介護5においては、初回から4回まで増加していた。初回において、この問題行動の発生率が最も高かったのは、要介護4の1.7%で、次いで要介護3の1.3%であったが、2回目に要介護4では、1.1%と減少していたが、要介護3では、1.7%と増加していた。3回目には、要介護3が1.7%と変化がなかったのに対し、要介護4では、0.8%と減少していた。4回目には、要介護3は1.6%と減少し、要介護4は、1.1%と増加していた。

表 149 要介護度別性的迷惑行為「ある」の割合(%)の経年的変化(N=16,156)

	非該当	要支援	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	全体
初回	0	0.1	0.3	0.7	1.3	1.7	0.3	0.6
2回目	0	0.2	0.4	1.0	1.7	1.1	0.6	0.7
3回目	0	0.3	0.4	0.9	1.7	0.8	0.9	0.7
4回目	0	0.3	0.6	0.8	1.6	1.1	0.9	0.8

第7章 分析対象者全体の認定時の状態項目の比較

1.分析方法

認定時の状態項目の変動に関して初回と2回目、初回と3回目、初回と4回目の変動を分析した。この分析に際しては、順序尺度であり、データの正規性および等間隔性が保証されないため、ノンパラメトリック手法を用いて検定をした。麻痺等の2段階評価の場合においては、3段階以上の評価の評価では Wilcoxon の符号付順位和検定を用い、初回の状態項目結果とそれぞれの回の状態項目の結果を比較した。

2.初回と2回目の基本情報の変動傾向

初回と2回目では、「麻痺（左下）」、「麻痺（右下）」、「拘縮（肩関節）」、「拘縮（肘関節）」、「拘縮（膝関節）」、「寝返り」、「起き上がり」、「両足での立位」、「移乗」、「洗身」、「じょくそう」、「皮膚疾患」、「口腔清潔」、「洗顔」、「つめ切り」、「薬の内服」、「金銭の管理」、「視力」、「聴力」、「意思の伝達」、「指示への反応」、「毎日の日課を理解」、「生年月日をいう」、「短期記憶」、「今の季節を理解」、「場所の理解」、「被害的」、「幻視幻聴」、「昼夜逆転」、「収集癖」、「火の不始末」、「ひどい物忘れ」、「点滴の管理」、「中心静脈栄養」、「透析」、「気管切開の処置」、「じょくそうの処置」、「カテーテル」、「両足での座位」、「浴槽の出入り」、「尿意」、「便意」、「ボタンのかけはずし」、「居室の掃除」、「周囲への無関心」の45項目で有意な差が示された。

変動が示された項目において、2回目のほうが状態が改善している傾向があると示されたのは14項目であった。運動能力に関連する能力としては、「移乗」、「両足の座位」であった。このほかに日常生活動作に関連する内容として「口腔清潔」、「洗顔」、「浴槽の出入り」が示された。このほかには、「じょくそう」、「点滴の管理」、「中心静脈栄養」、「気管切開の処置」、「じょくそうの処置」、「カテーテルの処置」が減少していた。また、「幻視幻聴」、「昼夜逆転」、「火の不始末」といった問題行動も減少していた。

一方、2回目のほうが、状態が悪化している傾向があると示されたのは31項目であった。運動能力に関連するものとして、「麻痺（左下）」、「麻痺（右下）」、「拘縮（肩関節）」、「拘縮（肘関節）」、「拘縮（膝関節）」の悪化が示され、日常生活動作として、「寝返り」、「起き上がり」、「両足での立位」の自立度が低下していた。

また、「視力」、「聴力」の低下もみられ、これに関連する「意思の伝達」、「指示への反応」への自立度も低下していた。日常生活関連動作として、「ボタンのかけはずし」、「洗身」、「つめ切り」の自立度も低下していた。

「居室の掃除」、「薬の内服」、「金銭の管理」においても自立度が低下していたが、これに関連する認知能力として「毎日の日課を理解」、「生年月日をいう」、「短期記憶」、「今の季節を理解」、「場所の理解」にも問題が出ていた。

医療的な処置を要する「皮膚疾患」や「透析」の割合も増えていた。「尿意」や「便意」の自覚も低下しており、「被害的」、「収集癖」、「ひどい物忘れ」、「周囲への無関心」といった問題行動の割合も増加していた。

以上のように、全体の傾向としては、初回から2回目、3回目、4回目と悪化する状況がみられた。

表 150 初回と2回目で改善傾向にある基本情報

1	移乗	0.00	**
2	じょくそう	0.00	**
3	口腔清潔	0.00	**
4	洗顔	0.00	**
5	幻視幻聴	0.00	**
6	昼夜逆転	0.00	**
7	火の不始末	0.00	**
8	点滴の管理	0.00	**
9	中心静脈栄養	0.03	*
10	気管切開の処置	0.02	*
11	じょくそうの処置	0.00	**
12	カテーテル	0.00	**
13	両足での座位	0.00	**
14	浴槽の出入り	0.00	**

*P<.05 **P<.01

表 151 初回と2回目で悪化傾向にある基本情報

1	麻痺(左下)	0.00	**
2	麻痺(右下)	0.00	**
3	拘縮(肩関節)	0.00	**
4	拘縮(肘関節)	0.03	*
5	拘縮(膝関節)	0.00	**
6	寝返り	0.00	**
7	起き上がり	0.00	**
8	両足での立位	0.00	**
9	洗身	0.00	**
10	皮膚疾患	0.00	**
11	つめ切り	0.00	**
12	薬の内服	0.00	**
13	金銭の管理	0.00	**
14	視力	0.01	*
15	聴力	0.00	**
16	意思の伝達	0.00	**
17	指示への反応	0.00	**
18	毎日の日課を理解	0.00	**
19	生年月日をいう	0.00	**

20	短期記憶	0.00	**
21	今の季節を理解	0.00	**
22	場所の理解	0.00	**
23	被害的	0.00	**
24	収集癖	0.03	*
25	ひどい物忘れ	0.02	*
26	透析	0.03	*
27	尿意	0.00	**
28	便意	0.03	*
29	ボタンのかけはずし	0.01	*
30	居室の掃除	0.00	**
31	周囲への無関心	0.04	*

*P<.05 **P<.01

注1：黄色部分が悪化、色なしは改善を意味する。(以下の表でも同様)

3.初回と3回目の基本情報の変動傾向

初回と3回目では、「麻痺(左上)」、「麻痺(左下)」、「麻痺(右下)」、「麻痺(その他)」、「拘縮(肩関節)」、「拘縮(肘関節)」、「拘縮(股関節)」、「拘縮(膝関節)」、「寝返り」、「起き上がり」、「両足での立位」、「歩行」、「移乗」、「立ち上がり」、「片足での立位」、「洗身」、「皮膚疾患」、「えん下」、「食事摂取」、「口腔清潔」、「洗顔」、「整髪」、「つめ切り」、「上衣の着脱」、「ズボン等の着脱」、「薬の内服」、「金銭の管理」、「視力」、「聴力」、「意思の伝達」、「指示への反応」、「毎日の日課を理解」、「生年月日をいう」、「短期記憶」、「自分の名前をいう」、「今の季節を理解」、「場所の理解」、「被害的」、「幻視幻聴」、「感情が不安定」、「昼夜逆転」、「暴言暴行」、「同じ話をする」、「大声を出す」、「介護に抵抗」、「常時の徘徊」、「落ち着きなし」、「収集癖」、「火の不始末」、「ひどい物忘れ」、「点滴の管理」、「中心静脈栄養」、「透析」、「カテーテル」、「両足での座位」、「両足つかない座位」、「尿意」、「便意」、「排尿後の後始末」、「排便後の後始末」、「ボタンのかけはずし」、「靴下の着脱」、「居室の掃除」の63項目で有意な差が示され、これらはすべて悪化していた。

初回から2回目において有意に変動が示された項目に追加された項目は、運動能力に関する項目として「麻痺(左上)」、「麻痺(その他)」、「拘縮(股関節)」、「歩行」、「立ち上がり」、「片足での立位」、「両足つかない座位」であり、これらはすべて、能力が低下していた。

「えん下」の自立度も減少しており、「食事摂取」の自立度も低下していた。日常生活動作においても「整髪」、「上衣の着脱」、「ズボン等の着脱」、「靴下の着脱」の自立度も低くなっていた。「排尿後の後始末」、「排便後の後始末」においても自立度が低下していた。

「自分の名前をいう」ことができない割合が増加し、「感情が不安定」、「暴言暴行」、「同じ話をする」、「大声を出す」、「介護に抵抗」、「常時の徘徊」、「落ち着きなし」といった問題行動も増加しており、「被害的」、「幻視幻聴」、「昼夜逆転」、「火の不始末」、「点滴の管理」、「中心静脈栄養」、「カテーテル」以外の17項目は悪化の傾向を示していた。

表 152 初回と3回目に悪化傾向が示された新たな基本情報

1	麻痺(左上)	0.67	0.02 *
2	麻痺(その他)	0.16	0.00 **
3	拘縮(股関節)	0.48	0.00 **
4	歩行	0.35	0.00 **
5	立ち上がり	0.09	0.00 **
6	片足での立位	0.78	0.00 **
7	えん下	0.74	0.00 **
8	食事摂取	0.51	0.00 **
9	整髪	0.28	0.00 **
10	上衣の着脱	0.90	0.00 **
11	ズボン等の着脱	0.15	0.00 **
12	自分の名前をいう	0.79	0.00 **
13	感情が不安定	0.66	0.00 **
14	暴言暴行	0.51	0.00 **
15	同じ話をする	0.10	0.02 *
16	大声を出す	0.30	0.00 **
17	介護に抵抗	0.10	0.00 **
18	常時の徘徊	0.89	0.04 *
19	落ち着きなし	0.09	0.00 **
20	両足つかない座位	0.79	0.00 **
21	排尿後の後始末	0.60	0.00 **
22	排便後の後始末	0.92	0.00 **
23	靴下の着脱	0.29	0.00 **

*P<.05 **P<.01

表 153 2回目、3回目ともに初回から変動があったと示された項目

		初回⇔2回目		初回⇔3回目	
1	麻痺(左下)	0.00	**	0.00	**
2	麻痺(右下)	0.00	**	0.00	**
3	拘縮(肩関節)	0.00	**	0.00	**
4	拘縮(肘関節)	0.03	*	0.00	**
5	拘縮(膝関節)	0.00	**	0.00	**
6	寝返り	0.00	**	0.00	**
7	起き上がり	0.00	**	0.00	**
8	両足での立位	0.00	**	0.00	**
9	移乗	0.00	**	0.00	**
10	洗身	0.00	**	0.00	**
11	皮膚疾患	0.00	**	0.00	**
12	口腔清潔	0.00	**	0.00	**
13	洗顔	0.00	**	0.00	**
14	つめ切り	0.00	**	0.00	**
15	薬の内服	0.00	**	0.00	**
16	金銭の管理	0.00	**	0.00	**

17	視力	0.01	*	0.00	**
18	聴力	0.00	**	0.00	**
19	意思の伝達	0.00	**	0.00	**
20	指示への反応	0.00	**	0.00	**
21	毎日の日課を理解	0.00	**	0.00	**
22	生年月日をいう	0.00	**	0.00	**
23	短期記憶	0.00	**	0.00	**
24	今の季節を理解	0.00	**	0.00	**
25	場所の理解	0.00	**	0.00	**
26	被害的 ^{*1}	0.00	**	0.00	**
27	幻視幻聴 ^{*1*}	0.00	**	0.00	**
28	昼夜逆転 ^{*1*}	0.00	**	0.00	**
29	収集癖	0.03	*	0.00	**
30	火の不始末 ^{*1}	0.00	**	0.00	**
31	ひどい物忘れ	0.02	*	0.00	**
32	点滴の管理 ^{*1}	0.00	**	0.00	**
33	中心静脈栄養 ^{*1}	0.03	*	0.03	*
34	透析	0.03	*	0.00	**
35	カテーテル ^{*1}	0.00	**	0.00	**
36	両足での座位	0.00	**	0.00	**
37	尿意	0.00	**	0.00	**
38	便意	0.03	*	0.00	**
39	ボタンのかけはずし	0.01	*	0.00	**
40	居室の掃除	0.00	**	0.00	**

*P<.05 **P<.01

注2：*1については、初回より改善あるいは減少傾向がみられた項目
(以下の表についても同様)

4.初回と4回目の基本情報の変動傾向

初回と4回目では、「麻痺（左上）」、「麻痺（右上）」、「麻痺（左下）」、「麻痺（右下）」、「麻痺（その他）」、「拘縮（肩関節）」、「拘縮（肘関節）」、「拘縮（股関節）」、「拘縮（膝関節）」、「拘縮（足関節）」、「寝返り」、「起き上がり」、「両足での立位」、「歩行」、「移乗」、「立ち上がり」、「片足での立位」、「洗身」、「じょくそう」、「皮膚疾患」、「えん下」、「食事摂取」、「口腔清潔」、「洗顔」、「整髪」、「つめ切り」、「上衣の着脱」、「ズボン等の着脱」、「薬の内服」、「金銭の管理」、「視力」、「聴力」、「意思の伝達」、「指示への反応」、「毎日の日課を理解」、「生年月日をいう」、「短期記憶」、「自分の名前をいう」、「今の季節を理解」、「場所の理解」、「被害的」、「幻視幻聴」、「感情が不安定」、「暴言暴行」、「同じ話をする」、「大声を出す」、「介護に抵抗」、「常時の徘徊」、「落ち着きなし」、「収集癖」、「火の不始末」、「物や衣類を壊す」、「異食行動」、「ひどい物忘れ」、「点滴の管理」、「透析」、「ストーマの処置」、「酸素療法」、「経管栄養」、「じょくそうの処置」、「両足での座位」、「両足つかない座位」、「浴槽の出入り」、「片手胸元持ち上げ」、「尿意」、「便意」、「排尿後の後始末」、「排便後の後始末」、「ボタンのかけはずし」、「靴下の着脱」、「居室の掃除」、「周囲への無関心」、「性的迷惑行

為」の73項目で有意な差が示された。これらの中で「被害的」、「幻視幻聴」、「火の不始末」、「点滴管理」以外は、4回目が初回よりもすべて悪化していた。

これらのうち4回目ではじめて初回との有意差が示されたのは、「拘縮（足関節）」ありの割合であり、「片手胸元持ち上げ」の自立度が低くなっていった。日常生活動作においても「浴槽の出入り」の自立度が低下していた。また「物や衣類を壊す」、「異食行動」、「性的迷惑行為」といった問題行動の発生率が増加していた。さらに「ストーマの処置」、「酸素療法」、「経管栄養」といった医療処置も増加していた。

表 154 初回と4回目に悪化傾向が示された新たな基本情報

基本情報	2回目	3回目	4回目
拘縮(足関節)	0.17	0.11	0.00 **
物や衣類を壊す	0.84	0.16	0.00 **
異食行動	0.42	0.13	0.01 *
ストーマの処置	0.13	0.15	0.02 *
酸素療法	0.87	0.36	0.00 **
経管栄養	0.58	0.80	0.00 **
浴槽の出入り	0.00 **	0.55	0.00 **
片手胸元持ち上げ	0.52	0.77	0.00 **
性的迷惑行為	0.11	0.09	0.03 *

*P<.05 **P<.01

表 155 初回から4回目に変動が示された基本情報の2回目、3回目の状況

	初回⇔2回目 P	初回⇔3回目 P	初回⇔4回目 P
麻痺(左上)	0.67	0.02 *	0.00 **
麻痺(右上)	0.21	0.27	0.00 **
麻痺(左下)	0.00 **	0.00 **	0.00 **
麻痺(右下)	0.00 **	0.00 **	0.00 **
麻痺(その他)	0.16	0.00 **	0.00 **
拘縮(肩関節)	0.00 **	0.00 **	0.00 **
拘縮(肘関節)	0.03 *	0.00 **	0.00 **
拘縮(股関節)	0.48	0.00 **	0.00 **
拘縮(膝関節)	0.00 **	0.00 **	0.00 **
拘縮(足関節)	0.17	0.11	0.00 **
寝返り	0.00 **	0.00 **	0.00 **
起き上がり	0.00 **	0.00 **	0.00 **
両足での立位	0.00 **	0.00 **	0.00 **
歩行	0.35	0.00 **	0.00 **
移乗	0.00 **	0.00 **	0.00 **
立ち上がり	0.09	0.00 **	0.00 **
片足での立位	0.78	0.00 **	0.00 **

洗身	0.00 **	0.00 **	0.00 **
じょくそう	0.00 **	0.20	0.00 **
皮膚疾患	0.00 **	0.00 **	0.00 **
えん下	0.74	0.00 **	0.00 **
食事摂取	0.51	0.00 **	0.00 **
口腔清潔	0.00 **	0.00 **	0.00 **
洗顔	0.00 **	0.00 **	0.00 **
整髪	0.28	0.00 **	0.00 **
つめ切り	0.00 **	0.00 **	0.00 **
上衣の着脱	0.90	0.00 **	0.00 **
ズボン等の着脱	0.15	0.00 **	0.00 **
薬の内服	0.00 **	0.00 **	0.00 **
金銭の管理	0.00 **	0.00 **	0.00 **
視力	0.01 *	0.00 **	0.00 **
聴力	0.00 **	0.00 **	0.00 **
意思の伝達	0.00 **	0.00 **	0.00 **
指示への反応	0.00 **	0.00 **	0.00 **
毎日の日課を理解	0.00 **	0.00 **	0.00 **
生年月日をいう	0.00 **	0.00 **	0.00 **
短期記憶	0.00 **	0.00 **	0.00 **
自分の名前をいう	0.79	0.00 **	0.00 **
今の季節を理解	0.00 **	0.00 **	0.00 **
場所の理解	0.00 **	0.00 **	0.00 **
被害的 *1	0.00 **	0.00 **	0.00 **
幻視幻聴*1	0.00 **	0.00 **	0.02 *
感情が不安定	0.66	0.00 **	0.00 **
暴言暴行	0.51	0.00 **	0.00 **
同じ話をする	0.10	0.02 *	0.00 **
大声を出す	0.30	0.00 **	0.00 **
介護に抵抗	0.10	0.00 **	0.00 **
常時の徘徊	0.89	0.04 *	0.00 **
落ち着きなし	0.09	0.00 **	0.00 **
収集癖	0.03 *	0.00 **	0.00 **
火の不始末 *1	0.00 **	0.00 **	0.00 **
物や衣類を壊す	0.84	0.16	0.00 **
異食行動	0.42	0.13	0.01 *
ひどい物忘れ	0.02 *	0.00 **	0.03 *
点滴の管理 *1	0.00 **	0.00 **	0.00 **
透析	0.03 *	0.00 **	0.00 **
ストーマの処置	0.13	0.15	0.02 *
酸素療法	0.87	0.36	0.00 **
経管栄養	0.58	0.80	0.00 **
じょくそうの処置	0.00 **	0.15	0.00 **
両足での座位	0.00 **	0.00 **	0.00 **
両足つかない座位	0.79	0.00 **	0.00 **
浴槽の出入り	0.00 **	0.55	0.00 **
片手胸元持ち上げ	0.52	0.77	0.00 **
尿意	0.00 **	0.00 **	0.00 **

便意	0.03 *	0.00 **	0.00 **
排尿後の後始末	0.60	0.00 **	0.00 **
排便後の後始末	0.92	0.00 **	0.00 **
ボタンのかけはずし	0.01 *	0.00 **	0.00 **
靴下の着脱	0.29	0.00 **	0.00 **
居室の掃除	0.00 **	0.00 **	0.00 **
周囲への無関心	0.04 *	0.69	0.02 *
性的迷惑行為	0.11	0.09	0.03 *

*P<.05 **P<.01

表 156 全分析対象における認定時の基本情報の初回から4回までの変動

	初回⇔2回目 P	初回⇔3回目 P	初回⇔4回目 P
麻痺(左上)	0.67	0.02 *	0.00 **
麻痺(右上)	0.21	0.27	0.00 **
麻痺(左下)	0.00 **	0.00 **	0.00 **
麻痺(右下)	0.00 **	0.00 **	0.00 **
麻痺(その他)	0.16	0.00 **	0.00 **
拘縮(肩関節)	0.00 **	0.00 **	0.00 **
拘縮(肘関節)	0.03 *	0.00 **	0.00 **
拘縮(股関節)	0.48	0.00 **	0.00 **
拘縮(膝関節)	0.00 **	0.00 **	0.00 **
拘縮(足関節)	0.17	0.11	0.00 **
拘縮(その他)	0.11	0.08	0.32
寝返り	0.00 **	0.00 **	0.00 **
起き上がり	0.00 **	0.00 **	0.00 **
両足での立位	0.00 **	0.00 **	0.00 **
歩行	0.35	0.00 **	0.00 **
移乗	0.00 **	0.00 **	0.00 **
立ち上がり	0.09	0.00 **	0.00 **
片足での立位	0.78	0.00 **	0.00 **
洗身	0.00 **	0.00 **	0.00 **
じょくそう	0.00 **	0.20	0.00 **
皮膚疾患	0.00 **	0.00 **	0.00 **
えん下	0.74	0.00 **	0.00 **
食事摂取	0.51	0.00 **	0.00 **
口腔清潔	0.00 **	0.00 **	0.00 **
洗顔	0.00 **	0.00 **	0.00 **
整髪	0.28	0.00 **	0.00 **
つめ切り	0.00 **	0.00 **	0.00 **
上衣の着脱	0.90	0.00 **	0.00 **
ズボン等の着脱	0.15	0.00 **	0.00 **
薬の内服	0.00 **	0.00 **	0.00 **
金銭の管理	0.00 **	0.00 **	0.00 **
視力	0.01 *	0.00 **	0.00 **

聴力	0.00 **	0.00 **	0.00 **
意思の伝達	0.00 **	0.00 **	0.00 **
指示への反応	0.00 **	0.00 **	0.00 **
毎日の日課を理解	0.00 **	0.00 **	0.00 **
生年月日をいう	0.00 **	0.00 **	0.00 **
短期記憶	0.00 **	0.00 **	0.00 **
自分の名前をいう	0.79	0.00 **	0.00 **
今の季節を理解	0.00 **	0.00 **	0.00 **
場所の理解	0.00 **	0.00 **	0.00 **
被害的	0.00 **	0.00 **	0.00 **
作話	0.08	0.33	0.13
幻視幻聴	0.00 **	0.00 **	0.02 *
感情が不安定	0.66	0.00 **	0.00 **
昼夜逆転	0.00 **	0.00 **	0.94
暴言暴行	0.51	0.00 **	0.00 **
同じ話をする	0.10	0.02 *	0.00 **
大声を出す	0.30	0.00 **	0.00 **
介護に抵抗	0.10	0.00 **	0.00 **
常時の徘徊	0.89	0.04 *	0.00 **
落ち着きなし	0.09	0.00 **	0.00 **
外出して戻れない	0.19	0.39	0.18
一人で出たがる	0.84	0.98	0.23
収集癖	0.03 *	0.00 **	0.00 **
火の不始末	0.00 **	0.00 **	0.00 **
物や衣類を壊す	0.84	0.16	0.00 **
不潔行為	0.51	0.30	0.43
異食行動	0.42	0.13	0.01 *
ひどい物忘れ	0.02 *	0.00 **	0.03 *
点滴の管理	0.00 **	0.00 **	0.00 **
中心静脈栄養	0.03 *	0.03 *	0.60
透析	0.03 *	0.00 **	0.00 **
ストーマの処置	0.13	0.15	0.02 *
酸素療法	0.87	0.36	0.00 **
レスピレーター	1.00	1.00	0.34
気管切開の処置	0.02 *	0.21	1.00
疼痛の看護	0.34	0.93	0.79
経管栄養	0.58	0.80	0.00 **
モニター測定	0.52	0.46	0.69
じょくそうの処置	0.00 **	0.15	0.00 **
カテーテル	0.00 **	0.00 **	0.54
両足での座位	0.00 **	0.00 **	0.00 **
両足つかない座位	0.79	0.00 **	0.00 **
浴槽の出入り	0.00 **	0.55	0.00 **
片手胸元持ち上げ	0.52	0.77	0.00 **
尿意	0.00 **	0.00 **	0.00 **
便意	0.03 *	0.00 **	0.00 **
排尿後の後始末	0.60	0.00 **	0.00 **
排便後の後始末	0.92	0.00 **	0.00 **